

○ 診療科の特徴

心療内科学講座は2000年に単独講座として開講、本学では比較的若い講座です。心療内科学とは内科系講座の一つであり、内科疾患のうちストレスなどの心理社会的な因子が濃厚に関与する病態を対象に、診療、研究、教育を行います。また、2011年から総合診療科、2019年から緩和ケアセンターと連携しており、総合診療や緩和医療の領域でも心療内科学を実践しています。このようなコンセプトで統合された講座は心療内科の先進国ドイツには存在しますが、世界的にも希少で先進的な構造の講座です。

○ 診療科で働く女性医師

- ・ 附属病院で1名の女性医師が非常勤として心療内科外来で勤務しています。
- ・ 関連病院で3名の女性医師が常勤として勤務しています（神戸赤十字病院心療内科 / 緩和ケアチーム、堺市立総合医療センター救急・総合診療科 / 緩和ケア科）。
- ・ クリニックで7名の女性医師が院長として勤務しています。

▶ 職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

- ・ 産休期間終了日の数か月前に、どのような勤務内容・形態で復帰するか相談致します。
- ・ 結婚、育児、介護など、さまざまな事情による休職や復職について個別に対応致します。

○ 研修内容

- ・ 当講座は多様性を大切にしており、希望するキャリア形成を支援できるように講座全体で柔軟に対応致します。
- ・ 勤務内容は、心療内科、総合診療科、緩和ケア医、産業医等幅広く選択できます。
- ・ 勤務形態は、外来を中心とした短時間勤務・非常勤勤務でも、フルタイムの病棟勤務まで、柔軟に対応しております。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

私は男性医師ですが、妻が女性医師復帰プログラムを利用して仕事と子育てを両立する姿を見ております。この制度に大変感謝しており、講座をあげてこの制度を支援していきたいと考えております。

【略歴】

2006年、滋賀医科大学卒業。初期研修終了後、関西医科大学心療内科学講座に入局。
後期研修終了後、国保中央病院緩和ケア科に6か月間出向。2011年4月より神戸赤十字病院心療内科へ出向。
2013年に第1子、2017年に第2子を出産。

【勤務状況・業務内容】

フルタイムで勤務。外来診察、他科入院患者のコンサルテーションリエゾン、緩和ケアチーム、転倒・転落防止チームとして活動。また、職員のメンタルケアにも力を入れています。現在は、大学からお声がけいただき、多施設研究にも参加しています。学会では、男女共同参画シンポジウムで発表の機会をいただきました。

【仕事と生活の両立について】

夫の勤務地が自宅から遠いため、子どもの送迎や食事の用意は私が主に担っています。その分、日々の洗濯や週末の子どものサポートなどは夫が担当しています。子どもの急病については、職場でも柔軟に対応していただき、早退や時差出勤で補っています。残念ながら院内に病児保育所がないため、近医小児科の病児保育所を利用しています。

第1子、第2子ともに、産休・育休（第1子：6か月、第2子：2か月）を取得し、その間は大学から非常勤として先輩、後輩の先生方にお越しいただき、外来業務をサポートしていただきました。大変感謝しています。

【女性医師が心療内科医として働くことの魅力】

心療内科医として、人生のどんな経験も診療に活かすことが出来ると感じています。私自身は家事・育児に注力するより、仕事をしている方が楽しいと思えたので早期に復職しましたが、妊娠・出産を経験できたことは診療するうえで大切な糧になっています。現場を離れることでキャリアを積む歩みは遅くはなりますが、心療内科の先生方は快く相談に乗ってくださり、とても有り難く感じています。また、キャリアの重ね方として「緩和ケア医」、「総合診療医」、「産業医」と選択肢に多様性がある点も、魅力のひとつだと思っています。

【女性医師へのメッセージ】

男女共同参画社会とはいえ、妊娠・出産をはじめ、女性医師の負担は大きいのが実情です。子どもが小さいうちは勉強時間の確保が難しく、遠くの学会への参加を躊躇うこともあります。仕事も家庭も中途半端に感じて、落ち込む日々もあります。それでも私は働きたい・学びたいと願い、その思いを家族だけではなく、職場や医局の皆様に支えていただいて今に至ります。その援助に感謝すると同時に、いずれは私も次世代を支える側として現場に立ち続けたいと思っています。一緒に頑張っていきましょう。

● 講座ホームページ 心療内科学講座 <https://www7.kmu.ac.jp/psm/>